

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：33905

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870864

研究課題名(和文) 農山村における男性層の支援を介した女性のエンパワーメント・プロセスの解明

研究課題名(英文) process of women's empowerment through social network between women and men in rural regions

研究代表者

畠山 正人 (HATAKEYAMA, Masato)

金城学院大学・国際情報学部・准教授

研究者番号：50635240

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は農山村における男女間ネットワークの生成と発展の過程を析出するとともに、その特質を明らかにすることを目的としている。調査地における地域運営に関連する資料や聞き取り調査をもとに、地域社会の動的なネットワーク構造を析出した。

結果、農山村において近年、男女間の新たなネットワークが生成されていること、またそれゆえ、地域の女性が地域運営に「穏便に」参画することが可能になっていることが示された。またそのネットワークには従来の地域運営の規範とは異なる組織風土が形成されており、これが徐々に地域社会全体に広がりつつあることも確認された。

研究成果の概要(英文)：This research aims to figure out the emergence process and characteristics of social network between men and women in rural areas. The dynamic process of social networking has been analyzed based on documents and interviews on decision making in research areas.

This result shows that the social network between women and men has been developed and then it enables rural women to join smoothly the decision-making process in the rural area. Moreover, It suggest that the organizational culture created in this network gradually spread in the whole rural society.

研究分野：経営学

キーワード：農山村 中山間地域 農村女性 男女共同参画 社会ネットワーク コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

現在、多くの中山間地域において、従来の地域運営の中核的担い手層であった昭和一桁世代の住民が引退局面を迎えている。かたや戦後の生活改善普及事業や、1990年代以降に注目されてきた農村女性起業に代表されるように、中山間地域の活性化における女性の活躍が目覚ましい。このような時代状況を鑑みると、中山間地域の持続的な運営を図るためには、地域運営への女性の参加の仕組みを築くことにありと指摘できる。

ところで、この社会的要請に対応する研究が、学術的にも展開されている。それら一連の研究は、農村女性のエンパワーメント（能力形成とその発揮）の視点で語られることが多い。大分するならば、第一に農村女性の個人レベルの能力形成、第二に女性どうしのネットワーク形成、そして第三に、地域コミュニティの意思決定場面への女性の参画の三つに分類することができる。

だが既存研究では、上記のうちの第三の視点、いわば、コミュニティ・レベルでのエンパワーメントについては、その過程や方途を析出するような実態調査は少ない。それは、このレベルでのエンパワーメントが実際面で極めて難しいがゆえであると考え（例えば畠山 2013）。

だが、農村女性の地域運営への参画が急がれる中、この困難なレベルでのエンパワーメント・プロセスを丹念に析出する必要がある。そして、その方法を導出するための新たな視点及び手法が求められてきている。

2. 研究の目的

(1) 中山間地域における地域運営の現段階において、特定の女性と男性がネットワークを形成していると想定し、そのネットワークの生成の過程を析出する手法を確立する。

(2) 男女間ネットワークの組織的特徴や、それを構成するメンバー（特に女性に支援的な男性層）の特質を探る。

3. 研究の方法

(1) 研究視点

農山村の男女共同参画に係る既存研究では、男女の区分を明確化させ、そこにア・プリオリに緊張関係があると想定し、女性のネットワークのみを対象とした研究を行うことが主流であったと振り返る。かたや本研究では、特定の女性と男性が性別に関係なくネットワークを形成していると想定する。そこで社会ネットワーク理論を援用し、地域の男女間ネットワークの変容過程を探る。社会ネットワーク理論は個々の人間関係をネットワークの形で素描する手法であるため、性別に囚われない男女の関係性を、その生成プロセスとともに析出することができる。従って、後期の研究視点と照らして適切な分析方法と考える。

(2) 男女間ネットワーク抽出の方法

各調査地において地域運営関連の議事録を収集し、そこから、地域の意思決定に携わる人物を抽出する。それらをネットワーク解析ソフトを用いてネットワーク図を描写していくことで、女性の地域運営への参画状況の変化をみる。ネットワーク調査ではしばしば、ネットワーク関係を持つ人物を記名させる質問調査があるが、農山村の場合、地域の間人間関係が緊密なために個人を特定し評価することを極端に忌諱する傾向がある。一方で客観的データを用いる本調査は、データ収集が標準化され、かつそれらが主観的でないという点では長がある。

(3) ネットワーク特質に関する質的調査

次に、男女間ネットワークを通じて女性の意向が地域運営に反映されるプロセス、そしてそれを可能にする組織的特質を把握するため、質的調査を実施する。具体的には、収集した地域運営関連資料の内容の分析、ネットワーク・メンバーへの聞き取り調査により実態把握していく。

(4) 調査対象

農山村の中でも過疎化が著しい中山間地域指定区域にて調査を実施した。調査は、立地の異なる2つの地区（島根県雲南市掛合町波多地区および豊田市大野瀬町）で調査を実施した。これらの地区は地域運営の最小単位である集落を超えた大字、あるいは旧村、旧小学校区と重なっており、近年注目される小規模多機能自治の範囲とも重なっていることから、これらの範囲でなされた会合の資料を収集、および聞き取り調査を実施している。

4. 研究成果

(1) 男女間ネットワークの生成過程

波多地区および大野瀬自治区の調査の結果、いずれも、地域ぐるみの新たな計画や事業、行事が形づくられた時期（いわば変革期）において、ネットワーク構造が変化している。より具体的には、地域における新たな会合の開催、そこへの新たな参加者の参入などの傾向が見受けられる。

一方、女性の参加に関して言えば、1989年以降徐々に女性の地域運営への参加が進んでいった畑地区に比べ、大野瀬自治区では地域運営への参加が、近年に至るまで男性に特化している傾向が伺えている。

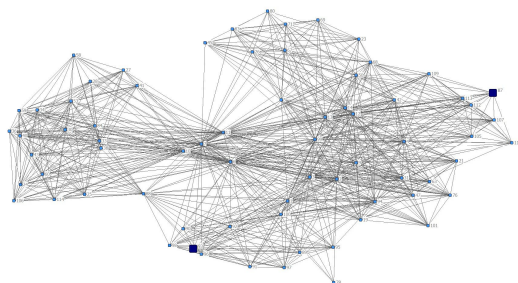
そこで、男女間ネットワークの様相が確認された波多地区において、そのネットワークの変化を眼差すためのネットワーク分析を実施している。

分析にあたっては、「変革期においてネットワーク構造が変化する」という点に着眼し、以下の2つの変革期のネットワーク構造を比較した。まず、地域運営における今後の課題を整理し、対応策を検討するためのソフト事業が導入された1989年から、その結果生じ

た新規事業が立て続いた 1996 年までを第 1 期とし(図 1 のネットワーク図を参照), 続いて, 少子高齢化に対応した地域運営の新たな仕組みづくりと地域活動を創発するソフト事業が導入された 2008~2011 年を第 2 期とした(図 2 を参照)。

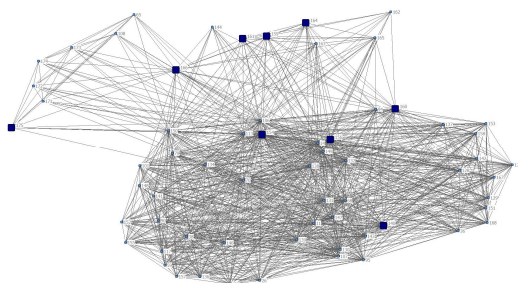
図 1, 2 を比較し, 波多地区の女性は緩やかにではあるが, 意思決定の場面への参加が進めていることが示された。同地区では, 1989 年以降と 2008 年以降の 2 つの変革期があったが, そのネットワーク構造を概観し, 女性の立ち位置を調べたところ, この 2 つの期で少なからず変化が起きており, 2008 年以降のネットワーク構造では幾人かの女性が地域の意思決定構造に食い込んでいく様相が確認できた。

そしてその中で, 関係強度の高いエッジ(つまり, 複数の会合を股にかけ肩を並べるメンバー)を抽出したところ, 図 3 のように特定の男性と女性のクリーク(群)が確認された。ここから, 本ネットワーク調査とその分析を通じて, 変革期にある近年の農山村において, 男女間ネットワークが徐々に生成されていることを示すことができた。



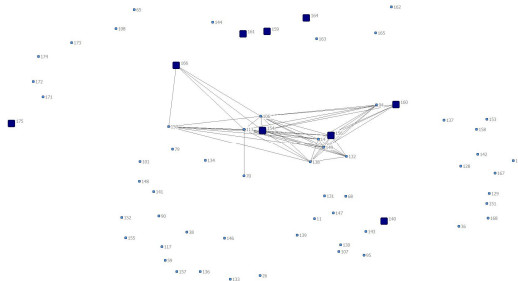
ノードの大きいほうが女性を示す。

図 1 1989~1996 年の間のネットワーク図
出所: 地域会議資料をもとに筆者作成。



ノードの大きいほうが女性を示す。

図 2 2008~2011 年の間のネットワーク図
出所: 地域会議資料をもとに筆者作成。



ノードの大きいほうが女性を示す。

図 3 図 2 のうち関係強度 4 以上のエッジのみを示したネットワーク図
出所: 地域会議資料をもとに筆者作成。

(2) ネットワークを構成するメンバー

2008 年以降に生成されたこのクリークは, 地域において公的な立場にある人材(例えば代議士経験者や地域運営組織のリーダー層)のみから成っているわけではなく, むしろ性別や立場を超えた, パラエティに富んだ人材から成り立っている。

さらに, このうち幾人かについて, 夫婦関係にある男女が含まれていることも強調したい。既存の中山間地域の地域運営の規範のもとでは, 地域運営への参加は世帯から一人と限られることが多く, 同じ世帯の人間が地域の会合において同じテーブルにつくことは稀であると考えられてきたからである。

(3) 男女間ネットワークの組織的特質

この性別を超えたネットワークに光を当てた場合, 農山村における男女共同参画のユニークな方途を導出できる可能性が浮かび上がってくる。男性中心の意思決定構造の中で, 女性が「穏便な」手法で徐々に意向を反映させていくために, 女性がこのネットワークをいわば「媒介的に」活用することが考えられるからである。

そこで続いて, このようなネットワークが地域の意思決定への女性の参画に如何にして影響を及ぼしていったのかを把握した。

波多地区において確認された男女間ネットワークは, 世帯主代表主義や一戸一票制といった, 女性にとって不利な意思決定構造が根強く残る状況において, 彼女たちが「穏便に」, 「段階的に」意思決定過程に参加する一つの手段になりうることを把握できた。事実, 図 1 において新たなネットワーク構成員となった 2 名の女性は, その後, 同地区で最も公的な意見要望を検討する場となる地域運営組織の構成員となっていた。

また図 2 で示された男女間ネットワークの受け皿となった会合の場では, 参加者が意見を出しやすいように会議や組織構造がデザインされている。その中で, 女性が立案したものを含め, 様々な企画が試行され現在も継

続化されている。

加えてこうした開放的な組織風土は、地域運営の既存組織の運営規範を変える潜在的可能性を有していた。例えば地域の意見要望を行うスタイルを一戸一票制から一人一票制へと変化させるよう促すなど、男女間ネットワークによって形づくられた開放的な組織風土は、「緩やかに」ではあるが、地区全体の意思決定構造のあり方に変化を促している。これが繰り返されることで、男女共同参画に向けた住民全体の意識変化が進んでいくことをも期待される。

(4) 学術的・実践的含意

本研究により農山村の男女共同参画の現状分析において、男女間ネットワークという新たな視点とともに、それを標準化された手続きのもと、女性の地域運営への参画に係る先発事例の析出や、そのよりステップ・バイ・ステップなプロセスを可視化する手法を提示し得た。またこれにより、男女共同参画時代の農山村における男性像や地域社会の規範の変革プロセスといった新たな研究課題を刺激することに繋がる。

さらに現在の農山村においては、地域に密着した多機能自治、すなわち様々な生活課題に対応することが求められてきている。ゆえに、地域運営場面において益々女性の視点が欠かせなくなっている。本研究で男女間ネットワークの構築という方途を示したことは、女性がより「穏便に」運営場面へと参加する端緒にもなり、その点で実践的含意をも有している。

<引用文献>

皇山 正人、コミュニティ・ビジネスと地域コミュニティ間の相互作用が組織に及ぼす影響,金城学院大学論集(社会科学編)第9巻第2号,2013,34-47.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

皇山 正人、中山間地域における意思決定構造の変化—男女間ネットワークを焦点として,金城学院大学論集(社会科学編),査読無,第11巻第1号,2014,24-39,
https://kinjo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=681&item_no=1&page_id=13&block_id=17

皇山 正人、中山間地域における男女間ネットワークの形成過程,金城学院大学論集(社会科学編),査読無,第10巻第2号,2014,110-121,
https://kinjo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=638

6. 研究組織

(1) 研究代表者

皇山 正人 (HATAKEYAMA, Masato)

金城学院大学国際情報学部・准教授

研究者番号: 50635240